

鶴来地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和 8 年 5 月 19 日(火) 19:00～
開催場所	鶴来コミュニティセンター
参加者	9 名(市長、支所長、コミュニティセンター長、社会福祉協議会会長、女性の会会長、初老会会長、消防分団長、商工会女性部長、ほか)
選択トピック	高齢者と子どもを地域で見守るまちづくりから 1. 老人会の解散・脱会の増加 2. 子どもの減少と若者流出への対応



2. 主な議題と意見

(1) 老人会の解散・脱会の増加



① 現状

- 地区老人会の解散及び脱会が相次いでいる状況
- 去年は「古水クラブ」が脱会
- 今年は「あじさいクラブ(第1・第2)」廃止に伴う脱会
- 館畑地区「館畑明和会」は解散
- 鶴来地区老人クラブ連合会全体:41 クラブ、会員数 1,457 名(男性 653 名、女性 804 名)
- 65 歳以上の高齢者数は鶴来地区で 1,240 人と多数存在

② 課題

- 役の担い手が少ない

例えば、鶴来大国町の老人会会長になると、寿齢会会長・会員→鶴来地区老人会→白山市老人会と、複数の役職を兼務する必要があり、負担が大きい
その結果、役の担い手不足により、組織が崩れていくことが懸念される

- **働き方の変化・コロナの影響による加入者の減少**

定年が 60 歳から 65 歳に延長され、さらに 70 歳近くまで就業する人が増加
65 歳から老人会へ加入できるとしても、まだ働いている人が多く、役務が負担
となり加入を避ける傾向、コロナ禍で活動がほぼ停止した。現在の会長は 77
～78 歳で、その下の世代がいない状況

- **高齢者の意識変化**

75～80 歳でも登山・スポーツなど趣味に没頭したいという思いが強い
老人会に入ると負担が増え、自分の時間がなくなることへの抵抗感がある

- **連帯感の喪失**

脱会が増えると「うちも行かなくていいのではないか」という追随現象が発生
し、その結果、繋がりがなくなり連帯感が喪失することが懸念される

③ 市の主な方向性・回答・対応

- **健康寿命の重要性**

市として健康寿命を延ばす取り組みを推進中、サロン活動やウォーキング、
体操クラブなど、外出して交流する場の提供が重要

- **既存活動の拡充**

地区で実施されているサロン活動(シルバーリハビリ体操など)をコミュニテ
ィセンターや団体でも実施することで、交流を増やすことが大切

(2) 子どもの減少と若者流出への対応



① 現状

- ・ 子どもの減少

朝日小学校の1年生が30人程度で、年々減少が続いている

- ・ 地域による格差

鶴来大国西町:0～9歳が53人、10～19歳が101人(断トツに多い)

鶴来大国町:0～9歳が20人、10～19歳が26人

旧町(朝日小学校周辺):子どもが少ない(例:鶴来下東町は小学生1人)

- ・ 若者流出

結婚を機に、鶴来から金沢市や野々市市に転出するケースが多い

朝日小学校の同級生(男性45～46名)のうち、現在鶴来に住んでいるのは体感で2～3割程度、鶴来中学校までの同級生(70～80名)でも同様の傾向

- ・ お祭りとの繋がり

流出した若者の3～5割がほうらい祭りに戻ってくる

半面、鶴来が好きで、一時的に市外に出ても、いずれ戻ってきたいと思っている人も多い(青年団としての関わりや関係人口としての活動あり)

② 課題

- ・ 土地・住宅の問題

鶴来では土地が少なく、単価が高い

親の家を相続する際、解体費用がかかることが流出の一因に

- ・ 子どもの経験・繋がり不足

子どもの頃から地域の活動に参加する機会が減少

クラブ活動(野球など)が昔より減っている

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ 高校生・大学生の参加促進

鶴来高校の地域探究活動を推進

松任高校、翠星高校など他校の地域参加事例を紹介

東京科学大学の学生が獅子吼高原再生プロジェクトなど地域活動に参加

- ・ 地域への愛着の醸成、関係人口の拡大

「ほうらい祭り」を活かし、関係人口を増やすことが重要、子どもの頃から地域でさまざまな経験をすることで、住み続けたい気持ちを醸成

- 白山市の支援制度の認知不足

白山市の支援制度（医療費 18 歳まで無償化、給食費無償化、第2子目以降の保育料無償化、新築時の奨励金など）が認知されていない
様々な方法で PR していく

3. まとめ

鶴来地区は、組織の役員自らが企画・立案して事業に関わる地域づくりを目指し、災害に備える“お天気セミナー”や“里山と野生動物セミナー”などを実施し、新たにスポーツ振興部会の立ち上げを試みるなど、さらなるコミュニティ強化に取り組んでいる地区です。

今回のミライ会議では、老人会の解散・脱会の増加、子どもの減少と若者流出という2つの課題について、具体的な話し合いを行いました。

市としては、今後も地域と一体となって取り組むことで、地域の活性化に努め、商工会、行政、高校などが連携し、交流の場を創出することで関係人口を拡大し、「鶴来に繋がる」関係構築を目指していくことを確認しました。

